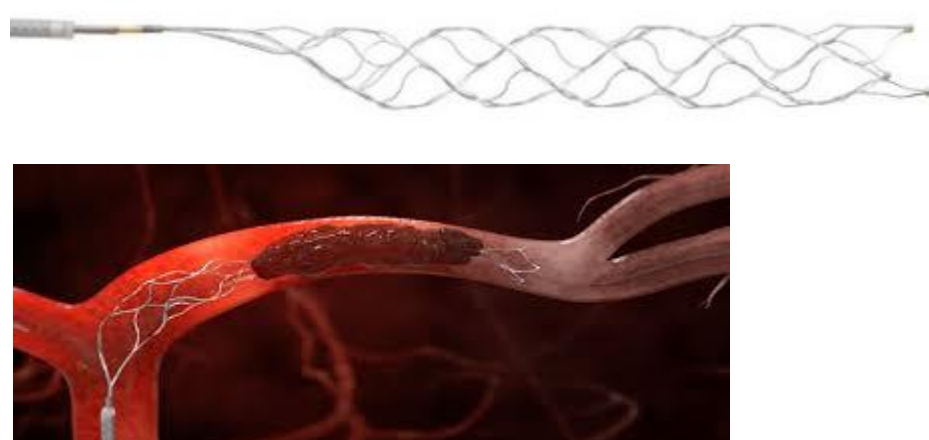


AIS: acute ischemic stroke
急性虚血性脳卒中

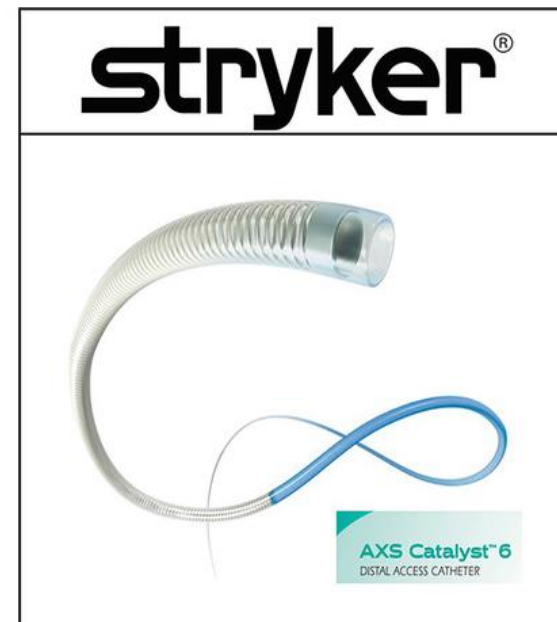
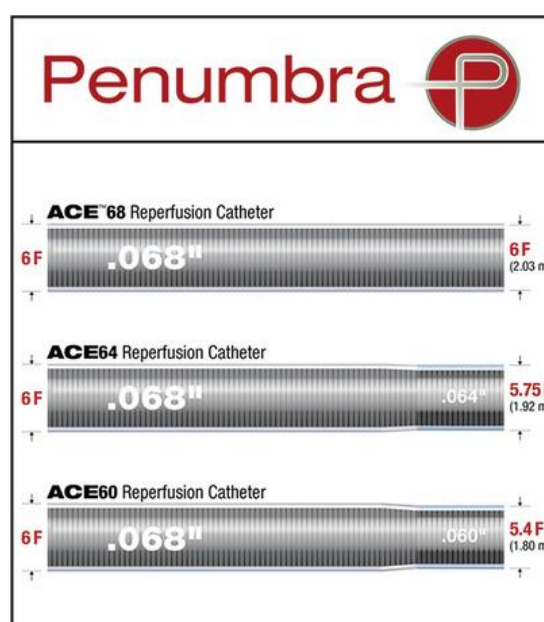
血栓回収療法に使うデバイス

血栓回収療法に使うデバイスにはどのようなものがあるのでしょうか。大きく分けると2種類あり、①**ステントリリーパー**、②**血栓吸引カテーテル**があります。現在医療センターで主に使っているのは以下のデバイスです。



ソリティア
6×40mmと4×20mmの2種類があります。1枚の網状のシートを筒状にしたような構造になっています。ステントリリーパーの中で一番拡張力が強いので、血栓をからめとる効果が最もあると言われています。

でも、弱点もあって、透視で見えにくいし屈曲部にある血栓は取りにくいんだ



エースとカタリスト
この2つは血栓吸引カテーテルです。直接血栓を吸いにくいADAPTという方法もありますが、最近ではステントリリーパーと一緒に使うことで血栓を挟み込んで回収するcombined therapyが主流です。中でもCAPTIVE(キャプティブ)というテクニックは現在全国的にも多くの先生が実践しており、高い再開通率が得られるようになりました。



血栓を挟み込む!

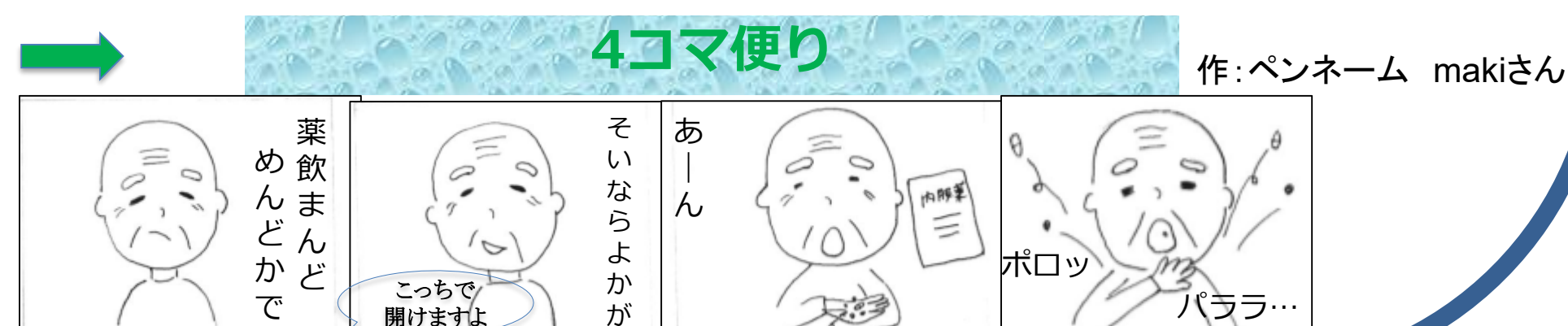


ちなみにカタリストは通称「キャット」と呼ばれているニャ



トレボ
6×25mm、4×30mm、4×20mm、3×20mmの4種類があります。Trepoの強みは左の図みたいに透視でも見えること。ステントがどの位置にあるかがわかります。また血管への負担が少ないので屈曲部の血栓にも有効です。

展開するときにはPush and fluff法っていうテクニックが大事

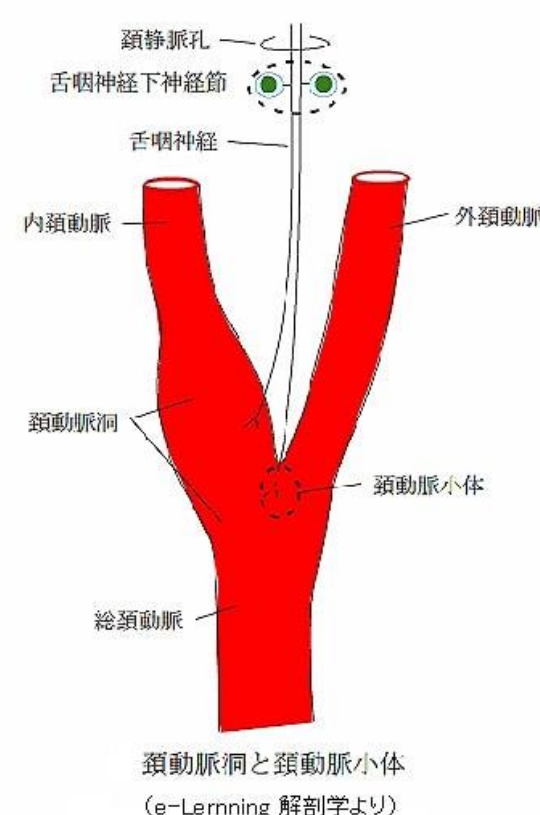


注目の1例

CAS(頸動脈ステント留置術)後に起こる注意すべきこと

徐脈・低血圧

右の図でわかるように内頸動脈起始部には頸動脈洞という血圧・脈を調節するセンサーのようなものがあります。バルーンで狭窄部を広げたり、ステントを留置したりすると突然ガクンと血圧と脈が下がり、中には心停止する人もいます。あまり知られていないことですが、術中に起きなくても術後数時間に突然出ることもあり注意が必要です。最大で1週間くらい徐脈低血圧が続く人もいます。



過灌流症候群

CAS後に治療側の脳血流が増えすぎることによってけいれんや脳出血など起こす病態です。100人に1人くらいおきます。この過灌流を予測するための機器がありINVOSといいます。これは指のSpO2を計るのに似ていて、**脳の酸素飽和度を計れる機器**です。上昇すれば過灌流、定価すればステント内閉塞を疑います。



穿刺部出血

これは最も見落としがちな合併症です。表面から血が出てなくても内部では血液が漏れ続けることがあり、皮下がはれてきたり、貧血の進行がないかはチェックするようにしましょう。



長生きふりかけ

- 材料
- しょうがみじん切り... 14g
 - とうがらしパウダー... 7g
 - にんにくみじん切り... 14g
 - かつおぶし... 70g



2020年にピンタレストから拡散したアイデアふりかけ。脳卒中、心臓病、がんを予防するというのがコンセプト。しょうがの「ジンゲロール」・・・代謝促進、殺菌
とうがらしの「カプサイシン」・・・代謝促進、誤嚥予防
にんにくの「アリシン」・・・新陳代謝、コレステロール低下
かつおぶしの「ヒスチジン」と「メチオニン」・・・中性脂肪低下、美肌効果

抗酸化作用もありそうです。
栄養士 菊樂 監修

気になる!

脳梗塞後の安静度について

ORIGINAL ARTICLE

Cluster-Randomized, Crossover Trial of Head Positioning in Acute Stroke

C.S. Anderson, H. Arima, P. Lavados, L. Billot, M.L. Hackett, V.V. Olavarria, Muñoz-Venturelli, A. Brunser, B. Peng, L. Cui, L. Song, K. Rogers, S. Middleton, J.Y. Lim, D. Forshaw, C.E. Lightbody, M. Woodward, O. Pontes-Neto,

N Engl J Med 2017;376:2437-47.

ちょっと前に話題になった論文。日本は脳梗塞急性期=安静臥位が当たり前です。この論文は海外で早期にヘッドアップさせても後々の後遺症には影響がでないという報告でした。体位についてはまだ明確な答えがないのが現状です。ただし日本は海外より動脈硬化性のラクナやBADという進行しやすい病態が多いため、この論文を鵜呑みにしてはいけませんね。